

政務活動費調査研究報告書

会 派 名 市民の会
氏 名 大塚 正俊

日 程	令和 8 年 7 月 6 日（月）午後 2 時 30 分から 3 時 40 分
場 所	宮城県仙台市
相 手 方	まちづくり政策局政策企画部プロジェクト推進課 課長 東島 みゆき、 主幹 丹野 拓洋、主査 柿沼 隆之
参加議員氏名	千木良孝之、大塚正俊、木佐貫佳子
用 務	行政視察「医療 MaaS 車両を活用した持続可能な地域医療体制の構築」
内 容	仙台市は、宮城県の中部に位置し、行政面積 786.14 km²、人口 1,094,072 人の市で、宮城県の県庁所在地です。 1. 診療カーによるオンライン診療サービス導入の経過 2023 年 2 月 1 日～3 月 31 日、仙台市医師会、仙台市、東北大学、NTT 東日本は連携して、将来想定される医師不足や高齢化に対応するために「患者側と医療側の双方にとって、より受け入れやすい簡便なオンライン診療」を普及させることを目的とした実証を行いました。 具体的には、看護師が医療機器を搭載した診療カーを用いて、患者を訪問・診療補助するオンライン診療モデル（DtoPwithN 型）を採用し、各種医療機器や通信環境の適用によるオンライン診療の質的効果の技術検証、その有効性の評価を行いました。 ※2DtoPwithN 型：情報通信機器を用いて医師对患者に加え、看護師が患者側で補助を行う診察 D：Doctor（医師）、P：Patient（患者）、N：Nurse（看護師） 2023 年 11 月 30 日より、診療カーによるオンライン診療サービスを開始しました。 ※国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用し、仙台市の「防災環境“周遊”都市・仙台モデル推進事業」の一環として社会実装を行っています。

	2. 診療カーによるオンライン診療サービス 医師の定期訪問が困難な地域に居住する慢性期の疾患をお持ちの患者宅やサービス付き高齢者向け住宅、郵便局等に、医療機器を搭載した診療カーとともに訪問看護師が訪れ、姿や表情のみならず、聴診音や心電図、さらには超音波画像などを遠隔地の医師に伝えます。現在、薬は家族が購入していますが、ドローンによる配達を検討中。 3. 診療カー搭載機器 ・テレプレゼンスシステム「窓」(メーカー ; MUSVI) ・テレプレゼンスシステム小「窓」(MUSVI) ・上腕式血圧計 HCR-7501T (オムロンヘルスケア) ・パルスオキシメータ HPO-300T (〃) ・音波通信体温計 MC-6800B (〃) ・聴診器 ; 試作品の改良に向け、仙台市医師会・東北大の支援により開発中 + スマートキュア (JP ステート・スマートゲート) ・超音波画像診断装置ポケットエコーmiruco (日本シグマックス) ・携帯型心電計 HCG-8060T (オムロンヘルスケア) 4. 診療カー購入経費 約 28,000,000 円 (車両ハイエース改良 + 搭載機器) 5. 医療カーのスタッフ ・乗車人数 ; 看護師 1~2 名、ドライバー 1 名 ・医師 1 名が病院にて遠隔診療 6. 参考資料 ・仙台市医療 MaaS https://www.city.sendai.jp/project/supercity/20231122_kisyahappyou.html
成 果	今後想定される地域の医師不足により、患者が遠方の医療機関への通院を強いられ、受診機会の減少による地域医療格差の拡大が想定されます。その解決策として、オンライン診療を活用することにより、市民のニーズに合わせた医療体制を構築し、地域差のない医療サービスが提供可能となります。 中津市においても国保診療所(槻木、山移、津民)や組合立下郷診療所の医師不足や民間病院の廃院等により、無医村化が心配されており、在宅診療も可能となる「仙台市の 2DtoPwithN 型方式による医療カーの導入」を早急に検討する必要があります。